



# 浜家連 ニュース5月号

第249号

2021年5月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

## 私の苦労を当事者研究という視点で

副理事長 倉澤 政江

先日、新聞夕刊2面に「発達障害」落語家の主張、という大きな見出しで柳家花緑さんの記事が載っていました。

花緑さんは40歳を過ぎてから自分が発達障害だとわかり、そのときのことを「飛び続けてきた鳥が安心できる止まり木を得たような気持ち」と表現していてその気持ちに共感しました。読み書き障害(ディスレクシア)とADHDの傾向も合わせ持っていて、失敗談は山のようにあるとのこと。最近は当事者の思いを伝える活動もしているそうです。

我家の長男も大学卒業後、社会人となった1年目に様々な失敗が重なり、抑うつ状態となりドロップアウト。24歳の時に広汎性発達障害、ADHDも合わせ持つと診断されました。

それを聞きやはりそうだったのか、と。何か変だなと思いつつもこれまで先送りしてきたことに、本当に申し訳なかったという思いでした。

幼い頃より忘れ物、なくし物が多く、周りとなじめず育てにくい子であり、親は何とか社会の中でついていける様にと助けてきました。それが私の習性となり、息子が大人になってからも何か問題が起こる度に不安になり、巻き込まれてはあれこれ手を出し、口出ししてきました。

このままではいけないと考えていた時に家族当事者研究と出会いました。

北海道浦河べてるの家で始まった当事者研究は生活する中で起きてくる生活課題、人生課題、症状のつき合い方から人間関係まで色々な苦労に対して研究という視点で向き合い、仲間と共

にアイデアを出し合い自分の助け方を編み出していく取り組みです。

当事者研究にはいくつかの理念があります。

・弱さの情報公開 ・自分の苦労をみんなの苦労に  
・初心対等 ・言葉を変える、振る舞いを変える  
・「人」と「こと(問題)」をわかる… などなど。

当事者研究では「自己病名」をつけたりしません。その時、私が付けた病名は「不安先取り型、勝手に心配症」。

子どもが病気になると育て方が悪かったと自分を責める母親は多くいますが、発達の凸凹を持っている子の場合には特に子どもとの感情の交流が上手くいかず、愛着が湧かないことがあります。子どもを愛せない自分の育て方が悪かったと思い、問題が起こる度にそのことに還元してしまい、罪悪感を抱いてきました。親も子ども一生懸命やっているのに上手くいかず、息子からSOSの電話が来ると私の中に途方にくれている5歳くらいの息子のイメージが浮かんでしまうという、私自身が抱える問題を何とかしたかったのです。

仲間の中で弱さの情報公開(お互いの弱さや苦労をありのまま持ち寄ること)をし、否定もジャッジもされない中でワイワイ、ガヤガヤと時に笑いながら話しました。親と子の境界線を引くこと、子どもの問題と親の問題を切り分け、今起こっているその問題は誰のものかを自分に問いながら「その人の苦労はその人のもの、人の苦労を奪ってはいけない」との気づきを家族当事者研究の中で与えられました。

そして「人」と「問題」を分けること。トラブ

ルが起こるとついその「人」を問題扱いしがちですが、「問題」が「問題」なのであり、「人」の価値は変わらないことを教えてもらい、見方、考え方が変わりました。現在、長男は家庭を持ち子どももいますが、問題はいろいろ起こります。さすがにとまどう5歳の子のイメージが浮かぶ誤作動は無くなりました。そして「苦勞が

あって順調です！いい苦勞してるね」と素直に言えるようになりました。最近しみじみ手放す愛、見守る愛の大切さを感じています。問題が起こると互いの境界線が曖昧になりがちですが、ほどほどの距離をとった応援団でいたいと日々努力中(研究中)です。

## 浜家連の動き



### ●令和4年度予算に対する要望書がまとまりました（抜粋）

#### 重点要望項目

##### ■医療費助成の拡充について

1. 精神障害者への医療費助成制度の拡充と格差解消  
精神障害 1 級の通院医療費に適用されている横浜市の重度障害者医療費助成制度を、1 級の入院医療費にも、また 2 級の通院費と入院費にも適用してください。
2. 診断書の無料化  
精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療、障害年金の更新時の診断書の無料化について、引き続き強く国に要望してください。

##### ■精神障害者が安心して暮らせる街づくりについて

3. 精神障害にも対応した包括ケアシステムの構築推進
  - アウトリーチ事業の推進
  - 多様な形態での住まいの確保
  - 教育・啓発事業の推進
  - 家族への支援強化
  - 長期入院の精神障害者の地域移行促進
4. 福祉人材の確保
5. 各区の福祉保健センターMSW の増員

##### ■安心して受けられる医療について

6. 患者の権利擁護の徹底、隔離、身体拘束等での人権への配慮
  - 療養病棟の入院患者の生活環境改善
  - 精神医療従事者の職業倫理規範の再考

##### ■その他

7. 発達障害児者の支援体制強化
8. 行動障害、薬物依存症、触法障害者への支援
9. ギャンブル依存症による被害をこれ以上増やさないための施策
10. 鉄道駅のホームドア設置促進
11. 就労支援強化
12. 成年後見制度の利用促進
13. 利用しやすい生活支援センター
14. 福祉パスのICカード化



## 2021年度の家族による家族学習会の実施について

家族学習会実行委員長 稲垣宇一郎

2009年度から、横浜18区の家族会が途切れることが無く実施して参りました「家族による家族学習会」でしたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に翻弄された1年でした。各単会による開催が難しくなり、その代わりに浜家連が主体になって実施することを決めた家族学習会も、受け入れ準備を整え、参加者も集まり、なんとか開催日を待つまでに漕ぎつけましたが、1月の緊急事態宣言発出を受けて中止の止むなきに至りました。誠に残念な1年でした。

期が改まり、家族学習会実行委員会のメンバーが「2021年度の家族による家族学習会をどうするか」について話し合いました。

1. 昨年度できなかった浜家連主催の若い人向け家族学習会を実施したい。
2. 18区家族会からも開催していただきたいので、参加のお願いを行う。
3. 担当者研修会In横浜を9月6日(月)に実施することを予定しました。

以上の項目を目標に、今期活動をして参ります。

家族による家族学習会について、参加された多くの方々から「話せる場があってよかった」とのお声を聴きます。また受け入れる側も「私たちこそ学ぶことが多かった」との声が毎回出ております。

コロナの感染拡大が収束せず、家族会活動も大変な時ですが、ぜひ単会でも家族学習会を開催して頂きたいようお願い申し上げます。

### 浜家連初代会長 菊地 正 様が永眠されました。

去る3月8日(月)浜家連初代会長を務められました菊池正様が永眠されました。浜家連の発展に尽力された功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

菊池 正様のご逝去に接して、以下のメッセージが寄せられています。



#### 菊池初代浜家連会長と歩んだ道

前浜家連副会長 矢島 瑞恵

この度、浜家連初代会長の突然の訃報に驚き、ただただ深い悲しみが込み上げてきます。

私が浜家連事務局を依頼されたのは、昭和61年頃でした。その頃、神奈川区家族会「わかば会」では作業所設置の要望が出ていました。

資金不足のため、大きなガラス瓶に、1円玉募金やバザーをはじめました。それぞれの家庭からテーブルや椅子、食器類を集めました。家にこもっている人々や入院している人たちに呼びかけ、参加していただきました。馴れない人たちは1日で来なくなったり、1週間で再発したりで、不安定な状態でした。

浜家連より地域作業所の設置要望書を提出し、ようやく半年後「わかば工芸」として許可が下りました。長い間の苦勞が報われ、手を取り合って涙しました。

その後、私は桜木町にある横浜市健康福祉総合センターの9階にある障害者福祉センターに電話番号として出勤していました。その部屋は、他の障害者団体が机を並べていました。それぞれに活発な働きをしていました。これらの障害者団体は、福祉対策、社会復帰等、30年前からの実績があったのです。それに引き換え、精神障害者団体は、手探り状態でした。

当時、私は精神の事も、福祉・社会復帰の事もあまり知識がなく、ワープロも打てなかったのです。それでも若い頃に英文タイプをしていましたので、なれない手つきで打てるようになりました。

菊池初代会長は、ご自分の飲食店の経営を奥様に任せ、市内19の家族会を纏め、社会復帰のための地域作業所設置の他、多くは市の衛生局に対して地域作業所等の運営費の要望、家賃、移転費、交通費、グループホームの設置、支援センターの設置等々、横浜市内を走り回ってらっしゃいました。

私も若い頃、車の免許を取り市内を走り回っていましたが、家族会活動のために若い頃にタイプを習い、車の免許を取ったのでしょうか、と不思議な気がします。

精神障害者のはかり知れない病に若い人々がひきこもりになり、ドアを開けないでいたのです。「靴を履いて外へ出よう」の合言葉でドアを開き始めていたのです。浜家連では毎年大会を開催し、広く世間に呼びかけていました。「外に出よう！！」と。

近年、人々のいじめや差別問題、引きこもりが大きく報道されるようになって来ました。浜家連の精神障害者活動は、先駆だったようです。

菊池会長と共に歩んだ月日を振り返り、私の知識不足が多く、さぞ足手まといだったことを一度お会いして、謝りたいと思っていた矢先でした。

菊池初代会長の多大な働きに深く深く感謝申し上げます。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 菊池 正さんのご冥福を祈ります。

前理事長 石井紀男

菊池 正さんの訃報に接し、改めて長いことご無沙汰していたことを思い出し、申し訳なかったと反省しました。最後にお会いしたのは浜家連の「30周年記念祝賀会兼 NPO 法人設立記念祝賀会」の席だったと思います。あの時は大変喜んでもらったことを覚えています。

個人的な思い出としては、ある時、私達夫婦で菊池さんのお店にお邪魔して、すっぽん料理のフルコースをいただいたことです。すっぽん料理を堪能したのは我が人生でこの一度だけです。

菊池さんは初めから浜家連結成に尽力され、昭和54年（1979年）初代会長になられ、平成13年（2001年）まで23年間続けられました。

最大の功績は作業所作りとその運営だと思います。

浜家連結成の当初から「社会復帰促進」を掲げ、昭和57年（1982年）には第1号の作業所「むくどりの家」を開設しました。当時、県内には精神障害者の作業所は川崎市に1か所、横浜市に1か所あるだけでした。家族会が作り、運営する作業所は初めてでした。全国的にも44か所（前年末時点、全家連30周年記念誌）しかありませんでした。

菊池さんはその後も次々と作業所を増やし、最終的には11か所まで増加させました。数を増やしただけではありません。作業所の必要性を行政に認めさせ、補助金の増額に努めました。1900年代後半頃には東京を除く全国の家族会から「横浜の作業所はうらやましい」と言われるほどでした。平成5年（1993年）県立精神保健センターがピネル賞を創設すると、その第1回目の受賞者に浜家連が選ばれたのも以上のような、菊池さんの功績が認められた結果だと思います。

菊池さんのご冥福をお祈りして、追悼のことばとします。



【編集後記】新入社員とおぼしき若者達が、どこの店に入ろうかとワイワイガヤガヤ騒いでいる姿が見られたのが、これまで4月の新横浜駅付近の風景でした。今はそのような姿は見られなくなりました。

今また、「蔓延防止等重点措置」が発令されました。関西では緊急事態宣が発令されそうです。この浜家連ニュースがお手元に届く頃はどうなっているのでしょうか・・・。

そんな状況で、巣ごもり生活が長く続く中「自分なりの快適な暮らし」ができればと思います。また家族会の運営も大変かと思いますが、知恵を出し合い「創意と工夫」でこの難局を乗り越えられればと思います。（事務局 中居）